

琵琶湖周辺の治水対策の現状

平成14年8月8日

琵琶湖部会

近畿地方整備局

琵琶湖沿岸被害の歴史

◆ 洗堰設置以前

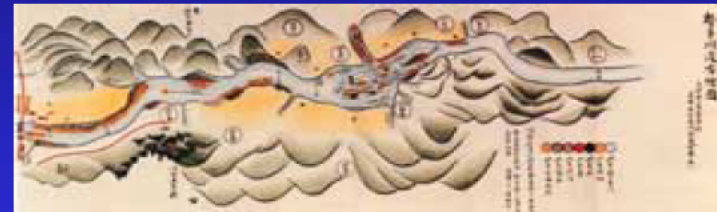
下流への流量増を怖れた為政者、下流沿川住民の反対にあいながら、浚渫を続けてきました。

奈良時代

- ・江戸幕府による浚渫不許可
- ・下流京都・大坂民衆による反対

- ・僧行基による瀬田川浚渫構想

江戸時代



- ・河村瑞賢、藤本太郎兵衛親子4代にわたる浚渫
- ・草莽の民によるシジミ取りにことよせた砂利採取

下流沿川住民の猛反対

明治時代

- ・瀬田川鉄橋事件
- ・命を賭した大越知事の瀬田川浚渫工事の内務省上申

明治29年未曾有の大洪水へ

琵琶湖沿岸被害の歴史

◆ 明治29年の未曾有の大洪水

- ピーク水位 3.76m
- 浸水家屋数 約2万8千戸
- 浸水面積 約1万6千ha
- 浸水日数 237日



琵琶湖沿岸被害の歴史

◆ 洗堰設置と瀬田川浚渫

洗堰の設置と瀬田川浚渫の組み合わせにより上下流の対立回避。

琵琶湖水位0mで

1908年以前
毎秒50m³



明治29年未曾有の大洪水

明治36年南郷洗堰の設置と瀬田川浚渫

昭和初期淀川河水統制第1期事業での浚渫

昭和36年瀬田川洗堰の設置と瀬田川浚渫

1908～1952年
毎秒200m³



1953～1967年
毎秒400m³



上流琵琶湖 ⇒ 瀬田川浚渫で流下能力を高め速やかな琵琶湖水位低下を実現することにより、沿岸浸水被害を支配する高水位継続日数を削減

下流淀川 ⇒ 洗堰を全閉することにより、下流洪水時の琵琶湖からの流出を制御することにより洪水被害防除